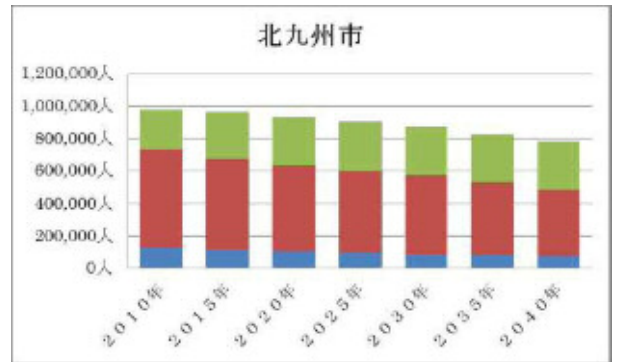


【資料3】 圏域の人口構造の変化 ～少子・高齢化の進展～

圏域全市町で人口は減少するも、高齢者の割合は増加すると予想されている。

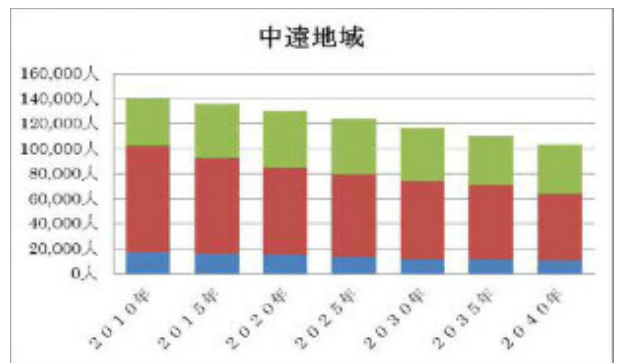
●北九州市

年齢層	2010年	%	2040年	%
65歳以上	246,463人	25.2	295,938人	37.7
15～64歳	603,733人	61.8	409,013人	52.2
14歳以下	126,650人	13.0	79,211人	10.1
合計	976,846人	100	784,162人	100



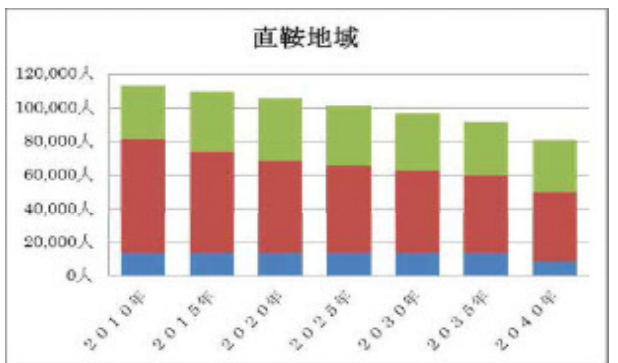
●中遠地域（中間市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町）

年齢層	2010年	%	2040年	%
65歳以上	38,256人	27.2	39,162人	37.8
15～64歳	84,988人	60.3	53,890人	51.9
14歳以下	17,633人	12.5	10,686人	10.3
合計	140,879人	100	103,738人	100



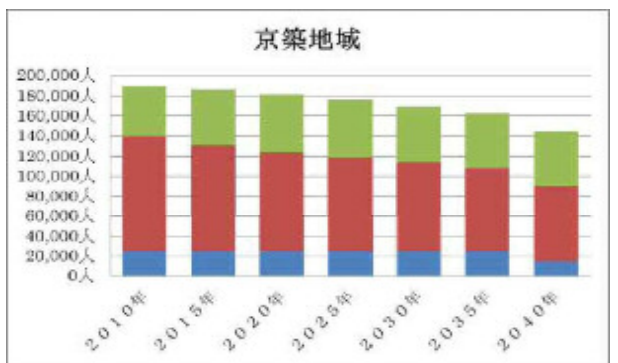
●直轄地域（直方市、宮若市、小竹町、鞍手町）

年齢層	2010年	%	2040年	%
65歳以上	32,196人	28.4	30,717人	37.9
15～64歳	67,263人	59.3	41,885人	51.8
14歳以下	13,998人	12.3	8,329人	10.3
合計	113,457人	100	80,931人	100



●京築地域（行橋市、苅田町、みやこ町、豊前市、吉富町、上毛町、築上町）

年齢層	2010年	%	2040年	%
65歳以上	49,538人	26.2	53,720人	37.2
15～64歳	114,456人	60.5	75,460人	52.3
14歳以下	25,270人	13.3	15,196人	10.5
合計	189,264人	100	144,376人	100



■ 14歳以下 ■ 15～64歳 ■ 65歳以上

エ. 圏域の交流人口（通勤・通学依存率など）

本圏域の市町は、高度経済成長以降、中心都市である北九州市のベッドタウンとして発展し、北九州市への通勤依存率が非常に高い値を示してきた。

しかし、JRなどの公共交通機関や高速道路などの整備に伴い、また、雇用状況の変化、日常の生活圏の広域化に伴い、福岡市方面や大分方面への通勤者が増加するなど、近年はその傾向にいくぶん変化が起こっている（資料4）。

一方、通学依存率は、高校、大学などの立地の関係もあり、北九州市と福岡市が上位を占めている（資料5）。

【資料4】 通勤依存率 15歳以上 （出展）H22.10.1 国勢調査

	自地域 依存率	1位			2位			3位		
		通勤先	人数	%	通勤先	人数	%	通勤先	人数	%
北九州市	86.3%	福岡市	7,834	1.8	苅田町	5,345	1.3	直方市	3,790	0.9
中間市	33.0%	北九州市	7,635	43.2	直方市	677	3.8	水巻町	544	3.1
芦屋町	43.9%	北九州市	2,236	32.2	遠賀町	262	3.8	水巻町	195	2.8
水巻町	26.4%	北九州市	5,724	46.1	中間市	541	4.4	遠賀町	423	3.4
岡垣町	32.6%	北九州市	3,836	28.2	福岡市	971	7.1	宗像市	799	5.9
遠賀町	31.5%	北九州市	3,111	35.3	岡垣町	357	4.0	福岡市	355	4.0
直方市	52.9%	北九州市	3,731	15.4	宮若市	1,654	6.8	飯塚市	1,165	4.8
宮若市	56.4%	直方市	1,302	10.4	飯塚市	731	5.8	福岡市	661	5.3
小竹町	29.8%	飯塚市	753	22.1	直方市	486	14.3	宮若市	376	11.0
鞍手町	39.6%	北九州市	1,338	18.4	直方市	775	10.6	宮若市	713	9.8
行橋市	51.8%	北九州市	4,868	15.5	苅田町	4,763	15.2	みやこ町	1,653	5.3
苅田町	55.0%	北九州市	3576	22.6	行橋市	1696	10.7	みやこ町	332	2.1
みやこ町	43.1%	行橋市	2094	22.6	北九州市	1086	11.7	苅田町	1072	11.6
豊前市	60.6%	北九州市	529	4.4	行橋市	499	4.2	上毛町	425	3.5
吉富町	29.8%	中津市	973	31.7	豊前市	562	18.3	上毛町	198	6.5
上毛町	40.7%	中津市	935	26.2	豊前市	619	17.4	吉富町	125	3.5
築上町	49.7%	行橋市	1238	14.4	北九州市	801	9.3	豊前市	713	8.3

【資料5】 通学依存率 15歳以上 (出展) H22.10.1 国勢調査

	自地域 依存率	1位			2位			3位		
		通学先	人数	%	通学先	人数	%	通学先	人数	%
北九州市	84.2%	福岡市	2,351	4.8	中間市	573	1.2	直方市	297	0.6
中間市	29.9%	北九州市	811	41.1	福岡市	143	7.2	直方市	137	6.9
芦屋町	14.0%	北九州市	313	49.2	福岡市	49	7.7	中間市	33	5.2
水巻町	12.9%	北九州市	743	54.5	福岡市	138	10.1	中間市	81	5.9
岡垣町	12.2%	北九州市	637	42.1	福岡市	248	16.4	宗像市	135	8.9
遠賀町	12.5%	北九州市	454	50.6	福岡市	97	10.8	宗像市	58	6.5
直方市	55.2%	北九州市	420	16.2	福岡市	284	11.0	飯塚市	123	4.7
宮若市	27.8%	直方市	337	27.0	福岡市	214	17.2	北九州市	120	9.6
小竹町	0.9%	直方市	115	35.0	福岡市	50	15.2	飯塚市	43	13.1
鞍手町	12.4%	直方市	253	35.3	北九州市	156	21.8	福岡市	100	13.9
行橋市	36.4%	北九州市	863	26.9	豊前市	238	7.4	苅田町	226	7.0
苅田町	30.3%	北九州市	486	28.4	行橋市	270	15.8	豊前市	61	3.6
みやこ町	28.5%	北九州市	197	21.4	行橋市	187	20.3	豊前市	70	7.6
豊前市	38.2%	北九州市	169	15.3	行橋市	108	9.8	築上町	69	6.3
吉富町	15.1%	中津市	91	29.2	豊前市	51	16.3	北九州市	38	12.2
上毛町	13.5%	中津市	77	25.9	豊前市	61	20.5	北九州市	35	11.8
築上町	26.6%	北九州市	148	19.6	豊前市	103	13.6	行橋市	101	13.4

【資料6】 商圏の状況

※買物出向率：市外居住者が北九州市内に年1回以上の頻度で買物に出向く比率

昭和60年

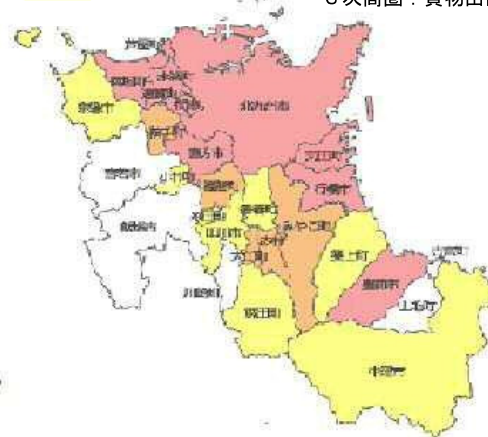
- 1次商圏
- 2次商圏
- 3次商圏



平成22年

- 1次商圏
- 2次商圏
- 3次商圏

- 1次商圏：買物出向率 70%以上
- 2次商圏：買物出向率 50~70%
- 3次商圏：買物出向率 30~50%



(出展)北九州市「平成22年度北九州市商圏調査報」

オ. 圏域の課題

本圏域は、戦後のエネルギー革命や産業構造転換への対応の遅れなどから、経済の停滞を余儀なくされ、また、全国的な超高齢・少子化社会の到来、三大都市圏や福岡市への人口流出などともあいまって、定住人口の確保が課題のひとつとなっている。

また、近年、「アジア諸国の経済発展」「高度情報化社会」「環境・エネルギー問題」など、地域をとりまく社会・経済情勢は大きく変化してきた。これに伴い、国際化、情報化、都市インフラの整備、医療・介護・福祉、環境・エネルギー対策など市町が直面する課題も多種多様化し、住民ニーズも、単独の市町というより圏域の市町が協力して解決すべき課題が多くなってきている。

カ. 各市町の紹介



●北九州市

北九州市は、昭和38年に、当時の門司・小倉・若松・八幡・戸畑の五市が合併して誕生した九州で最初の「政令指定都市」である。また、九州の最北部、本州との接点に位置する北九州市は、官営八幡製鐵所の操業を契機に“ものづくりのまち”として発展してきた。

『人と文化を育み、世界につながる、環境と技術のまち』を基本構想のまちづくりの目標と掲げ、誰もが「住んでみたい、住み続けたい」と思えるまちの実現を目指している。

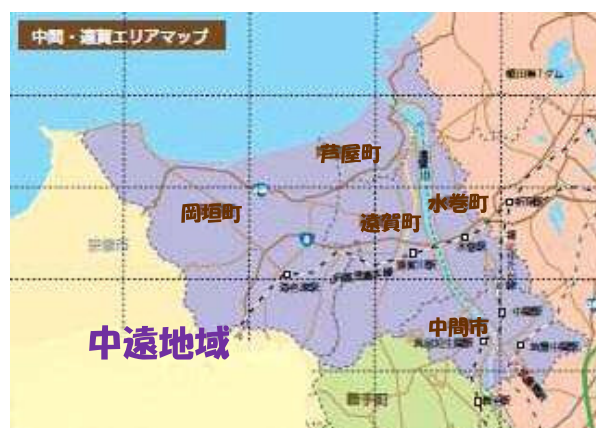
中遠地域

●中間市

昭和30年代までは炭鉱のまちとして栄えていたが、その後、快適な住宅都市として発展してきた。市のほぼ中央にまちを東西に二分する遠賀川が流れている。川の東部地区にはなだらかな丘陵を背景に住宅街と商業地などが形成され、西部地区には美しくのどかな田園風景が広がるとともに工業団地なども立地している。

●芦屋町

東は北九州市に隣接し、響灘を望む遠賀川の河口に広がる町である。美しく変化に富んだ海岸線に恵まれ、古い歴史を持つ神社仏閣や文化財も多い。特に室町時代に一世を風靡した「芦屋釜」は、国の重要文化財に指定されている茶の湯釜九点のうち八点を占めている。古くからの港町の風景が脈々と続いており自然と文化・歴史が共存している。



●水巻町

東は北九州市に隣接し、西は遠賀川に挟まれた南北に長い町である。昭和15年に町制を施行し、“石炭産業のまち”として栄えてきたが、炭鉱閉山後は、積極的な住宅施策により、北九州都市圏内のベッドタウンとしての発展を見せている。

●岡垣町

北九州市と福岡市の間位置する良好な交通アクセスと、三里松原や孔大寺山をはじめとする自然環境に恵まれた地域特性を背景にベッドタウンとして発展してきた。定住人口、交流人口の増加と、地域に愛着を持つ人材の育成などを柱とするまちづくりに取り組んでいる。

●遠賀町

遠賀川の下流に開けた遠賀平野の中心に位置し、古くから農耕文化が栄え、現在も稲作を中心とした農業が基幹産業である。国道や県道、JRなどの交通アクセスにも恵まれ、農村のゆとりと都市の活力を併せ持つ「笑顔としぜんあふれるまちづくり」を進めている。

直鞍地域

●直方市

筑豊平野のほぼ中央に位置しており、中央部を流れる遠賀川や東西に位置する福智山系と六ヶ岳など豊かな自然に恵まれた都市である。

石炭産業の隆盛により培われた“鉄工のまち”としての技術と技能が集積。歴史、文化、自然など地域資源を活かしたまちづくりを行っている。

●宮若市

旧宮田町と旧若宮町が平成18年に合併して誕生した。山と川に囲まれ豊かな水資源を持ち、犬鳴山の麓には脇田温泉も沸いている。石炭産業に代わって、トヨタ自動車九州(株)を中心とした自動車産業が進出し、“工業のまち”として発展を続けている。

●小竹町

福岡県のほぼ中央に位置し、かつては長崎街道の沿道都市として、また昭和初期は、“石炭産業のまち”として発展してきた自然豊かな町である。現在は産業団地の企業誘致を積極的に進めている。

●鞍手町

北九州市と福岡市の間位置し、九州自動車道の鞍手インターチェンジがあるなど、交通アクセスに恵まれた町である。遠賀川や六ヶ岳などの自然に囲まれ、主な産業は農業で巨峰の生産が盛んである一方、工業団地もあり製造業も盛んである。

